

答 辞

厳しい、冬の寒さの中にも、春の訪れを感じるこの佳き日に、私たち札幌あいの里高等支援学校六期生は、卒業の日を迎えました。本日、私たちのためにこのような心のこもった卒業証書授与式を挙行していただき、また、ご多忙の中、ご臨席賜りましてご来賓の皆さまに卒業生一同、心から感謝申し上げます。

この学校に入学する前の私は、人と話をしたり自分の気持ちを表現したりすることが、苦手な中学生でした。「人に、どう思われるだろう。」そう考えるだけで不安からお腹が痛くなり、友達に話しかけることをためらうことが多くありました。勉強のことを考えると教室に入ることさえできない日もありました。そんな自分を変えてみたい。この学校で、今までの自分を変えることができるだろうか。期待と不安の入り交じる入学式だったことを今でも覚えています。そして、卒業の日を迎えた今、自分は、「変わることができたんだ」と、自信をもって言うことができます。それは、まず第一に、この三年間をともに過ごしてきた友人たちのおかげです。

私にとって三年生のみなさんは、大切な友人であり憧れの存在でした。毎朝、元気に挨拶してくれる友人に元気をもらい、私も毎朝の挨拶を大切にしてきました。私が、何かで失敗したり落ち込んだりした時も親身に話を聞いてくれました。友人達の支えを受けて私も誰かを楽しませたり励ましたりできる人になりたいと強く思うようになりました。部活動や作業学習では、協力することの大切さを感じることができました。友人達との仲が深まるにつれ「手伝うよ」「大丈夫？」という思いやりの言葉を掛けられるようになっていったのです。

そんな高校生活で友人達との一番の思い出は、三年生最後の学校祭です。ステージ発表の練習が始まったころは、全員が本気で練習に取り組むことは、できていませんでした。息が合わなかったり、声が小さかったり、三年生のステージ発表は、これで大丈夫だろうか、と、不安になったのは、私だけではなかったはずです。しかし、練習を重ねるうちに自然と相談し合ったり、休み時間に合唱の練習をしたり、少しずつみんなの気持ちがまとまっていくのを感じることができました。そして迎えた本番。合唱を終えたときには、これまでにない達成感を感じることができました。最後の写真撮影では、みんなの笑顔が溢れていました。高校生活をとおして友人の優しさ、気遣い、力強さ、チャレンジする気持ち、様々な姿に触れ自分もみんなに近づきたいと努力することができました。私が、理想の自分に近づくためのきっかけをくれた大切な仲間たちです。ここにいる三年生のみなさん、どうもありがとうございました。

そして、この私たちを、三年間支え続けてくださった多くの先生にも感謝を伝えさせてください。先生は、いつも私たちを気に掛け声を掛けてくださりました。先生たちは、私たちの表情やいつもと違う行動だけで私たちの悩みや困りごとに気が付い

てくださいました。先生たちの前では、正直に自分の気持ちを話すことができました。授業でも勉強に苦手意識のある私でしたが、分かるまで、丁寧に教えていただき、自分にもできると自信をもつことができました。間違ったり失敗したりしたときにも、叱るだけではなく、どうしたら良いのか、助言をくださりました。本当にありがとうございました。先生方から受け取ったものを胸に私たちは、前に進んでいきます。

そして、近くでずっと支えてくれた家族のみなさまへ。まだ、大人になりきれていない私たちは、八つ当たりをしたり、心配させてしまうことが、たくさんあったと思います。それでも、毎日当たり前に食べていた、食事の準備や、清潔な衣類、何気ない毎日の中にたくさんの愛情があったことに感謝しています。そして何より、私たちの一番の味方でいてくれました。ちょっと照れくさいですが、この場でお礼を言わせてください。お父さん、お母さん、本当に、ありがとうございました。もう少し時間が掛かるかもしれませんが、一日でも早く親孝行ができるように頑張ります。これからも私たちを見守っててください。

二ヶ月ほど前、テレビには、海の映像が流れていました。でもそれは、私の知っている穏やかな青い海ではなく、荒々しい鉛色の海でした。濁流となり、家をなぎ倒し、車を飲み込む津波の映像でした。今もなお、震災で苦しんでいる人たちがいます。私たちと同じ三年生は、自分たちが学んだ校舎で卒業式を迎えられずにいます。私たちは、今は何もできずにただ、心を寄せることしかできません。でも、いつか自立し社会に貢献し、これまで多くの方々に支えられてきた分、誰かの支えとなれる大人になることを約束します。

三年生のみなさんは、覚えていますか？二学期の終業式の日。先生が「面倒くさい」「やりたくない」「自分に関係ない」そんな理由で避けてきたことでもまずはやってみる。やってみたその先に、「やってよかった」と、思える達成感が必ずあると話していました。この先、辛いことや苦しいことがたくさんあると思います。終わりの見えないこの状況に不安になることもあると思いますが、そんなときは、この言葉を思い出して一歩前に踏み出していきましょう。

お別れの時が近づいてきました。最後になりましたが、三年間支えてくださったすべての方々に改めてお礼を申し上げるとともに、本日ご臨席賜りました皆さまのご健康と札幌あいの里高等支援学校のさらなる発展を願って答辞の言葉とさせていただきます。

令和六年三月八日

卒業生代表